

## 第15回 環境ボランティアリーダー海外研修報告書

薪く炭くKYOTO

松田直子

### ■リーダーとして生かし方

研修を終えた後の地域で生かさなければ、今回お世話になった皆さん、また募金して下さった方々に顔向けができない、実践は参加者としての責務だと思います。リーダーとは何か、自分自身と向き合った10日間でした。現在、NPO活動が発展して事業化を行い、取り組みが広がった一方で、11年続いたNPOが発展的解消（森づくり部門は別団体として独立）するにあたり、もう一度自分がすべきこと、そもそも仕事とは何か、今後10年先のことを一度じっくり考えたいと、この研修に参加させていただきました。

研修の初日、成田空港での課題は、この研修で学びたいことと、目標としたいことをドイツに到着するまでに提出することでした。非日常であり、隔離された空の上、飛行機の中で、学びたいこととして、【応募作文をいま読み返すと、環境先進国ドイツの施策や市民参加の仕組みづくり、広い視野で物事を見るところのようなことを書いていました。今思うと具体性がない気がします。人材育成、事業マネジメント、情報発信・・・、様々な課題がある中で、組織や仲間、地域に対して、「愛とユーモア」で楽しく仕事をするのでしょうか？ 真面目すぎる活動を別の視点で、客観的に考えたい】と書きました。

愛とは、家族、スタッフ、仲間（同士）、ご近所さん、お客さん、活動地や地域そのものなど、感謝の気持ちをもって接すること、ユーモアとは、目の前の業務や締切に終われている日々の中で、心に余裕を持って仕事をする事、既成概念や思いこみをくつがえす別の視点から見る、新しい分野とのコラボなどできないか、それをユーモアとしました。活動ミッションは「森や里山を元気にすることを目指して、木質バイオマスの利活用について提案し、薪炭革命をおこすこと」です。

また、目標としたいことは、【経営者はアイドルでなくてはならない。岡正人さんという方の本で、寛容、思いやり、表裏のなさ、それが岡さんの魅力です。by 郷ひろみと本の帯にありました。なるほど！JALグループの機内誌10月号のスカイワードインフォメーションに。発信力を身につけることします。】と記しました。飛行機の中で偶然見た機内誌の文章ですが、緊張感をもって役割を貫き通すこと、情報を発信し続けること、笑顔でいる努力をすること、でしょうか。偶然ではなく、必然だと思い、これを目標としました。

目標を立てた以上、成果（効果）を問われますが、達成できたかという、

毎日波のように押し寄せる情報の渦、講義の話を消化するのに精一杯で、ほとんどできませんでした。頭では理解していても、発言しようとしたらうまく言葉にまとまらなかったり、寝不足気味で時間に遅れてしまったり、他の人に委ねてしまったり、全体より自分のことを優先してしまったり、できないことだらけでした。補講はない（はずな）ので、帰ってからの宿題、課題とします。

## ■支援する仕組みづくり

ドイツ研修から学んだことの多くはここには書き切れませんが（それぞれの訪問先の報告をご覧ください）、ドイツは確かに環境先進国ですが、外に出て、改めて日本は素晴らしい国だ、自分のいる地域も素晴らしいところだと感じました。ドイツから学んだことは14年間の先輩研修生が各地域で実践しているはずなので、似たようなプログラムを国内で行えば、より受益者が増え、社会へ還元できるのではないかと思います。

身近な京都という土地だけでも、十分に今回と同様のプログラムが組めます。環境に取り組んでいる社寺をファンドレイジングの視点から見る、大学や行政と連携し地域人材の育成をしている組織、インターンシップや人材育成に積極的に取り組んでいるNPO、地域の特産品づくりや発信に成功している団体（あえてNPOと名乗っていませんが）、福祉分野でデザイナーと組んで広報を上手に行っている発信力の高いNPO、フィールドを持って多様な環境プログラムを実施するNPO、今まで意識したことがなかったですが、身近に頑張っている人・団体が多くありました。このことは京都に限らず、他の地域でも同様だと思います。青い鳥は近くにいた、宝物に気がつくきっかけは、外に出て、ドイツを見たからでしょうか。

そして、年に一回は同窓会など、定期的に顔を合わせられたら嬉しいです。会ったことのない、先輩方もたくさんおられます。私はフェイスブックなどうまく活用できていませんが、時には顔を合わせ、他のリーダーの姿を見て、近況の話を聞いて、それぞれ頑張らねばと奮い立たせる、そんな機会があれば良いと思います。自分の地域も見てもらいたいですし、恥ずかしくないよう、切磋琢磨しあえる同士として、これからリーダー会に参加できるのが楽しみです。人が集まれば、必ず何か有形だけでなく無形のものも生まれる。各地域の知恵を集め、人が集まって語れば、もっとよいアイデアが生まれる。仕組みづくりも、まず人と人が出会うことからでしょうか。

## ■感想

今回の研修で一番印象に残ったことは、デモクラシー（デモクラチー）と選択と責任について考えたことです。訪問先で講師から頻繁に発せられる言葉で、

ドイツを語る上で必須な用語です。多数決等で選べる、選ぶ自由がある一方で、責任をとらなう。責任があることは、選択できることである。3人よれば文殊の知恵というが、選択できる個人が形成する組織や社会は豊かだろう。しかし、自分を確立できていないと、どの道に進むべきかという選択の苦悩が生まれる。人の真似をしていると、選択できない。選択できないことは息苦しいが、進むべき道、ルールは引かれているので楽である。頭では、言葉では理解していても、民主主義とは、政治とは、選ぶとは、、、考えれば考えるほど、どんどん頭が混乱してきました。未だに自分の中で腑に落ちていませんが、リーダーの選択と責任にも通じることだと思います。10日ではパッと答えがでるものではないですが、焦らず、これからゆっくり考えていきます。

日本は、経済成長という軸が揺らいでいる今、社会全体としても、個としても自信をなくしています。日本は輪を大切にす、謙遜社会です。グローバル化の今、欧米や中国の主張が強いことが良いとは思いませんが、発信していくためには、自分を奮い立たせて意見を述べることを、信じた道を進むことを恐れないことです。ドイツから学んだことは、ポジティブに話すこと、広報の見せ方を考えることだと思います。

私自身も、毎日選択と責任に悩みながら、その瞬間、ベストだと思う選択を繰り返す。時には考えることを先送りしてしまい、物事の本質と向き合わない、そんな時もあります。課題を解決することばかりに目がいてしまい、あれもできてない、これもできてないと自分を責め、現状にいつも満足しない、追い立てて生きることは息苦しいです。むしろ自分をもっと好きになること、そして強みをのびしていくこと、課題や弱みは少しずつ解決していこう、弱気に思えるかもしれませんが、休みをしっかりとること、ゆとりがドイツから学んだことです。

そこで、組織の強みを考えてみました。スタッフが女子であること（バイオマス業界の中では少数派です）、設立して新しい団体でチャレンジ精神があること、日本中でうちしかない商品やサービスがあること、木質バイオマスの分野であれば、どんな仕事も引き受けること（今までで断った仕事は1回だけありますが）、地域のネットワークを広く持っていること、燃料革命は女性の社会運動であったように、木や火が好きで、大きいことや理想だけを言わずに、小さくてもまず自らの暮らしで実践しようとする現実的であること、いま思いつく限りのことを列挙しました。弱みは強みと表裏一体ですが、発信、モノは言いようかとそして、薪炭（バイオマスエネルギー）革命を起こす、社会にヒバナを散らしたいと考えていること。他にもあったかと思いますが、時間切れなので、後日、もう一度じっくり考えます。

研修中は日々の仕事を持ち込まず、メールもつながらず（つなげずといった方

が正確ですが)、こんなに長い期間、日常の雑事を忘れて、自己と向き合えた貴重な機会をいただきました。組織は違えど、全国各地の同じ立場のリーダーと一緒に学び、悩みを話したり、今後の活動について話をしたり、昼間だけではなく、夜に(時には遅くまで)話し合った時間は貴重でした。

来年に向けて、一つだけ気になったことは、急いで食べることは相手にどのように映ったでしょうか。私は大丈夫でしたが、全体として食事の量が多かったことは、環境に取り組んでいる立場として、改善してほしいなと思いました。

ドイツに負けないよう(競っているわけではありませんが)、日本で京都から、木質バイオマスの発信をしていきます。また明日から地に足をつけて、地道に、でも前より少し計画的に頑張ります。組織内のマネジメントを課題としていたので、当面の予定を立てました。

- ・10月 パソコン内のデータベース整理中(今月に完了予定)
- ・11月 本棚の整理、店舗やバックヤードの仕組みづくり
- ・12月 ホームページ完成(現在、改訂中)
- ・1月 広報(ペレットボイラー等店舗、同士、ネットワークのこと)
- ・2月 倉庫の片付け
- ・3月 年度末業務のため、お休み
- ・4月 報告会(半年あ後に九州で再会の予定)

\*カイロプロジェクト、進めます!

今回一緒に参加したメンバーに改善したことも聴いてみたい。

強い意志を持ち、改善を続けてみせます。

最後に、全体を暖かく見守ってくださった萩原団長、すべてをコーディネートしてくださったアツイ小野さん、素晴らしい通訳の小島さん、日本旅行の武藤さん、お忙しい中時間を割いてお話くださったドイツの皆さん、そして一緒に参加した研修生の池田さん、唐澤さん、園田さん、立山さん、萩野さん、宮嶋さん、ありがとうございました。4月に九州で会えることを楽しみにしています。